プロジェクトリーダー：金城学院大学　国際情報学部　小林芽依

事　業　実　績　調　書

（1）プロジェクト名	「まちゼミ」の魅力度アップによる商店間連携促進プロジェクト

（2）プロジェクトの成果（※そのような成果が得られたかについて具体的に記載）

まちゼミと商店街子ども合宿の後、参加者と協力店舗にアンケート調査を実施した。また成果報告会の場を設けた。その資料を参照に、活動成果を4点にまとめる。

1. 参加児童への教育効果。丁寧な講座実施、自己肯定感の向上、友人関係の広がりに感謝をする声が多く見受けられた。また保護者からも、学んだことを自宅で継続しているという意見をいただいた。
2. 参加児童の保護者への商店街PR効果。（これまではあまり知らなかった）尾張瀬戸駅周辺の商店街を身近に感じた、実際に店舗にリピートしたという意見があった。
3. まちゼミの活性化。従来の顧客層が一新され、名鉄瀬戸線沿いの10・30・40代の参加が増えた。結果、新規顧客の開拓につながり、かつ経営改善につながる様々なヒントを得たという店舗側の意見があった。
4. 商店街の一体感づくり。商店街子ども合宿に新たな店舗の参加があるとともに、商店街全体が商店街子ども合宿を友好的に支えてくださった。また成果報告会では次年度の継続意向も示され、まちゼミや商店街子ども合宿を核とした商店街一体化の機運が見受けられた。

（3）プロジェクト実施内容（※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）

1. まちゼミタイアップイベント 商店街子ども合宿の実施
   - 1) 実施方法：子ども及び保護者への訴求力のある「夏休み中の児童向け合宿」を中心市街地商店街で行った。商店街店舗主が先生役、金城学院大生がアシスト役、市内の小学校児童が生徒役になり、1泊2日で衣食住の様々な生活の知恵を学ぶものである。
   - 2) 時期・場所・回数：2018年8月2・3日（金・土）に、ゲストハウス「もやいや」を拠点に中心市街地商店街で実施（1回）。
   - 3) 周知方法：まちゼミの告知に合わせ、市内の全小学校にチラシ配布。
   - 4) 参加人数：［ゲスト側］小学校高学年児童10名（申し込み39名）。
     ［ホスト側］中心市街地店舗11店舗、瀬戸まちづくり株式会社1名、瀬戸商工会議所1名、瀬戸市役所2名、金城学院大生34名。
2. まちゼミおよび商店街子ども合宿の成果検証
   - 1) 実施方法：まちゼミ、商店街子ども合宿の実施後に参加者にアンケート調査を行った。分析を金城学院大学畠山ゼミ生が行い成果報告会にて報告、また出席叶わない関係者に向け、報告内容をYouTubeに動画形式で限定アップロードをした。
   - 2) 時期・場所・回数：成果報告会は2018年10月25日（木）ゲストハウス「もやいや」で実施（1回）。
   - 3) 周知方法：各商店街で周知した。
   - 4) 参加人数：商店街店舗主4名、瀬戸まちづくり株式会社2名、瀬戸商工会議所2名、瀬戸市役所1名、金城学院大学1名

（4）プロジェクトの今後の課題と展望

基礎メンバーと商店街の各店舗は、商店街子ども合宿を2019年度も実施することを念頭に置いている。ただし今年度、協働ゆえの責任の所在の不明確さ、準備不足、講座の詰め込みすぎによる柔軟性の欠如などの問題点が浮き彫りになった。そのため2019年度は、商店街子ども合宿のスリム化、協働する際の責任の所在や役割分担の明確化、事前準備を徹底化を課題とし、現在は話し合い開始の段階に入っている。

その他（写真等）

（1）写真

【写真 1】商店街関係者と学生との事前打合せ。

【写真 2】ゲストハウス「もやいや」にて。学生スタッフが宿泊。

【写真 3】削り節体験講座。食事は自炊のため食事準備を兼ねている講座も用意しました。

【写真 4】和菓子づくり体験。店舗内での開催が難しいため、「もやいや」で実施。

（2）参考 QR コード

↑ 子ども合宿 PDF ↑
（Google アカウントが必要です。）

↑ まちゼミ成果報告動画 ↑
（YouTube 動画です。）

※ 商店街子ども合宿の当日の様子は、グリーンシティケーブルテレビならびに中日新聞（2018 年 8 月 4 日なごや東版 16 頁）にも取り上げられております。